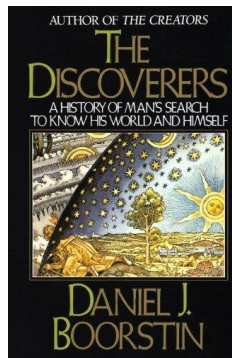


# 日本心理学会第86回大会

公募シンポジウム

学術誌を創刊することの意義

話題提供：白岩祐子(埼玉県立大学)



# 学術誌の成り立ち

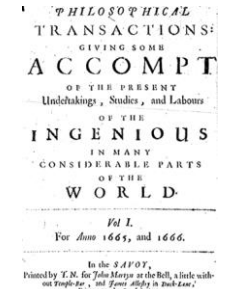
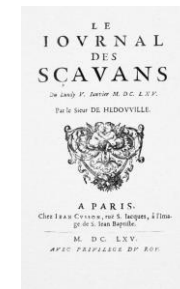
「本誌の目的は、文芸共和国（※ヨーロッパの学術ネットワーク）のなかで起こっていることを知らしめること」（序言）

## 学会出版としての学術誌

- 17世紀 フランス 『Journal des sçavans』 創刊
- 17世紀 イギリス 『The Philosophical Transactions of the Royal Society (哲学紀要)』 創刊

## 学術誌の目的・効用

- 発見や成果を公開し、ひろく発信する手段として誕生
- 発明者、発見者をめぐる紛争の予防にも



# 査読の功罪

## 査読の目的

学会出版の創刊・運営を支えるのは使命感と自律心

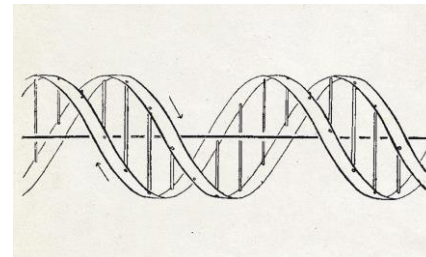
- 妥当な手続きから外れた研究の排除
- 永久機関の発明、特定の思想信条の排除...

## セカンドベストとして存続した査読

- 70年代 米国立科学財団は査読で研究費を配分
- これを議員が批判

まぎれもない査読の弱点

- 「身内によるお友達システム」「新しいアイデアを塞ぐ」
- 研究者の反対で実現せず  
査読は維持される



# 学術誌をめぐる近年の動向

<https://www.nii.ac.jp/today/82/4.html>

## 70年代 商業出版社が参入・躍進

インターネットの普及

論文数の世界的増加

包括オンライン契約(ビッグ・ディール)開始

ビッグ・ディールの高騰&高止まり

図書館は書籍の購入や小規模出版社の学術誌購読を断念

小規模出版社の身売りと大手による寡占

Other

### 学術誌をアカデミアの手に取り戻す

オープンアクセスの最新動向と岐路に立つ日本

「インターネットで論文にアクセスしたら値札がついていて読めなかった」、「自分が投稿した論文なのに読むことができない」、「学術誌が高すぎて購読契約ができないと所属機関から聞いた」。

こうしたことは、研究者であれば誰も一度ならずも経験したことがあるのではないのでしょうか。出版に一定のコストがかかるのは致し方ないとしても、インターネットがありコンテンツをオープンに瞬時に流通させることができる時代において、学術情報をもっと自由に流通させたいというのは多くの研究者の願いでしょう。

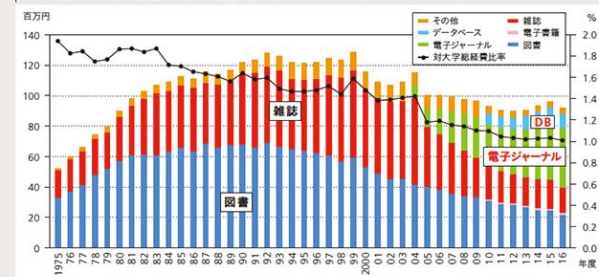
この課題の解決のために進められている「オープンアクセス」について、各国の動きや手法、対策を紹介します。



船守 美穂 Miho Funamori

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授

図3 国内の大学図書館資料費の推移(国公私立大学1大学あたりの平均額)



(出典)文部科学省(旧文部省)「学術情報基礎実態調査結果報告」(旧「大学図書館実態調査結果報告」)による(JUSTICE事務局作成) <https://www.nii.ac.jp/content/justice/documents/>

現在では、電子ジャーナル、電子書籍、データベースの費用が、大学の図書館資料費の5割以上を占め、図書と雑誌の予算を大きく圧迫している。それでも電子ジャーナルの価格高騰に対応しきれなくなると、パッケージ契約を維持できないなど大きなダメージを受ける。

# 学術誌をめぐる近年の動向

## 70年代 商業出版社が参入・躍進

インターネットの普及

論文数の世界的増加

包括オンライン契約(ビッグ・ディール)開始

ビッグ・ディールの高騰&高止まり

図書館は書籍の購入や小規模出版社の学術誌購読を断念

小規模出版社の身売りと大手による寡占



小規模学術誌の電子化を補助



掲載料(≡国による研究費)目当てのOA誌増大

# 『宗教／スピリチュアリティ心理学研究』 目的

## 地域色をふまえた研究の促進・公開・発信

- 一神教の文脈に必ずしもとらわれない...
  - 発表場所の確保
  - 研究の促進
  - 成果の集約
- 次世代の育成
- 学際的な交流促進
- 国外研究者による参照先の一元化

### 宗教／スピリチュアリティ心理学研究について

---

宗教やスピリチュアリティ（宗教的なるもの）は、人間やその社会、生活を考える上で、学術的にも、極めて意義あるテーマです。しかし、これまでの実証的研究は大学紀要等のみに掲載されていることが多く、また研究者間での議論や交流がほとんど行われてこなかったため、これらの知見が継承されないまま埋もれてしまうという悪循環を繰り返してきました。

そのような悪循環を乗り越えるために、今こそ学問の領域を越えた実証的研究の蓄積と理論の洗練が必要です。そこで、宗教／スピリチュアリティについての研究成果の発表・蓄積と研究者の相互交流の活性化を期待して、当雑誌を刊行することとしました。

「宗教／スピリチュアリティ心理学研究」の創刊は2023年で、年1巻刊行予定の査読付きのオンラインジャーナルです。誰でも無料で投稿でき、無料で読むことができます。「宗教／スピリチュアリティ心理学研究」では、「宗教」や「スピリチュアリティ（宗教的なるもの）」についての実証的な研究を中心に、それと関連する幅広い分野の研究論文を掲載します。心理学を中心に、心理や行動を扱っているものであれば、分野、基礎研究と実践研究の区別を問わず投稿可能です。皆さんもぜひこの新たな渦にご参加いただければ幸いです。

# 『宗教／スピリチュアリティ心理学研究』 形態と意義

- 学会出版(予定)
- 年一回のオンライン刊行
- 掲載料 無料
- 購読料 無料

ホーム > 投稿募集

## 宗教／スピリチュアリティ心理学研究への投稿

「宗教／スピリチュアリティ心理学研究」には、誰でも論文を投稿することができます。編集委員会による審査を経て受理された論文が掲載されます。

「宗教／スピリチュアリティ心理学研究」に投稿される論文原稿は、以下に定める編集規程と投稿規定にしたがった内容である必要があります。投稿される前に、かならずご確認ください。

### 投稿資格

投稿資格は問いません。ただし、学術雑誌への投稿経験の無い人は、必ず経験者の指導を受けたいうえで投稿すること。

<https://jjprs.jp/CallForPaper.html>

成果の公開と発信

学術誌としての質の維持

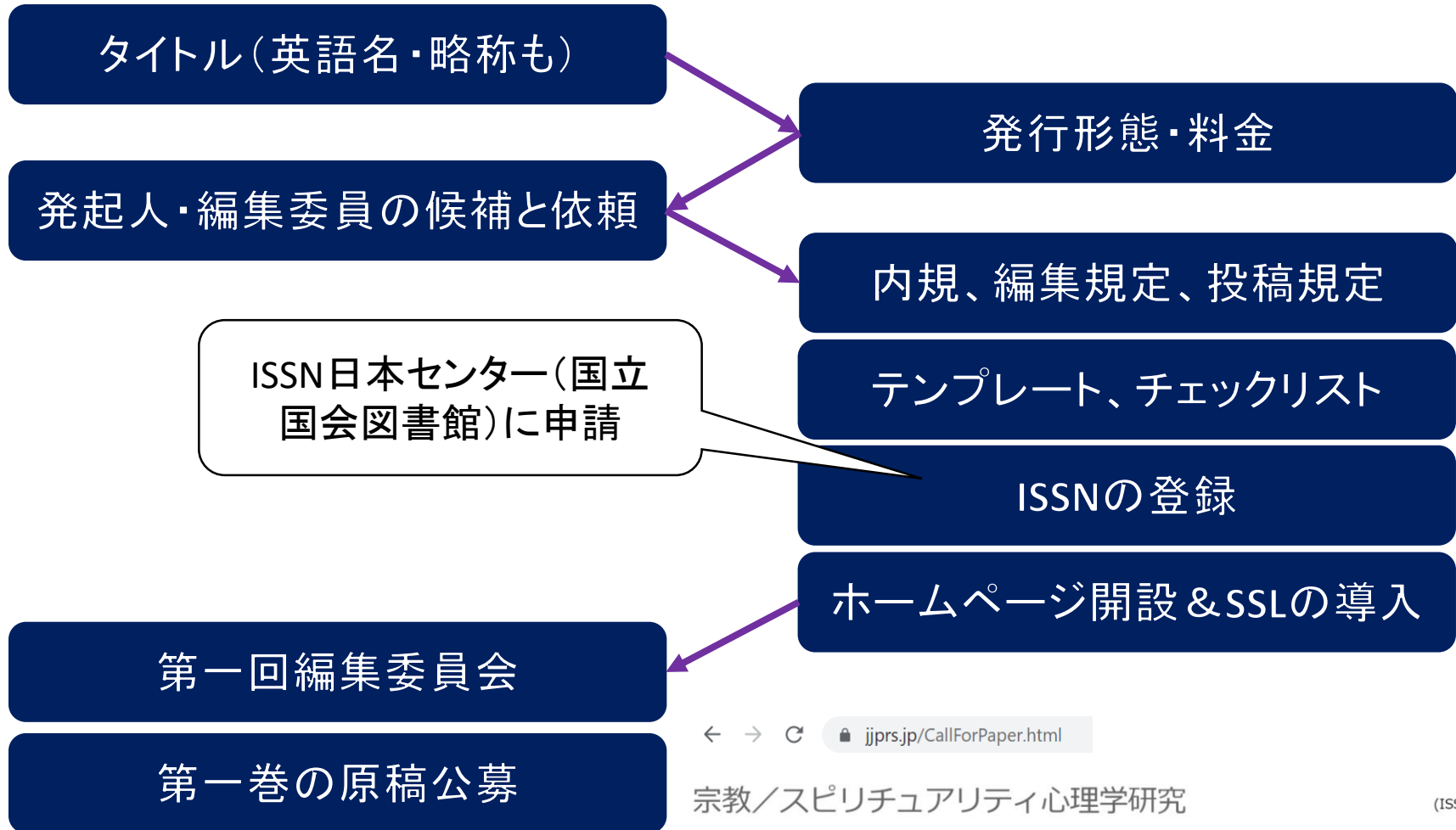
独創性の芽を守る努力

論文アクセス可能性向上

研究促進・次世代の育成

創刊号2023年3月発行  
(本年9月30投稿〆切)

# 学術誌の創刊を考えている人に 参考：今回の創刊手順



← → ↻ [jjprs.jp/CallForPaper.html](https://jjprs.jp/CallForPaper.html)

宗教／スピリチュアリティ心理学研究

(ISSN:2758-1004)